

令和2年度第3回行政評価委員会（暮らし部会）会議録

1 開催日時

令和2年9月3日（木） 午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階 第3中ホール

3 出席者

(1) 委員 6名

鈴木健委員（部会長）、細川祥委員、高橋カヨ子委員、小原幸子委員、佐藤洋子委員、小原好美委員

(2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

健康づくり課：阿部勇悦課長

(3) 事務局（施策評価及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課企画調整係：吉田真彦主査

財政課経営財務係：阿部ゆうみ主査

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策、「健康づくりの支援」について以下の流れにより評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

鈴木健部会長：「3 成果指標の達成状況」の達成度がDとなっている。評価が厳しいという印象を受けたが、評価の基準に従うと、「成果指標の中でa、b評価が半分以下」の場合、全体評価が機械的にDとなったということを補足する。

高橋カヨ子委員：自分は食生活改善推進協議会で活動しているが、自分の地区では決まった回数は何とかやる、ということでやっている。現状では参加者も高齢化しており、食事を作って食べて帰る以上の発展は難しいと感じる。

D評価を見たときには驚いた。個々の努力は買ってほしいと思うところもある。健康診断については、個人の意識の問題が大きいと感じる。定期的に健康診断を受けている人の割合が成果指標となっているが、自分は病院に行っているから、（健診には行かなくても良い）と思う人も多いのかもしれない。個々の意識を高めるしかないのかなと思う。

鈴木健部会長：食生活を普段から気にするということはないのかもしれない。病気にならないと気をつけない、というのはその通りと感じる。

佐藤洋子委員：自分も保健推進員を10年やったが、自分が学んだことを伝達するほかに自分にとってもメリットがあった。同じ人が何年もやるのではなく、多くの人が保健推進員とし、勉強・伝達する輪が広がれば良いと思うが、保健推進員の成り手がいない。仕事をしている若い人は会議が平日の日中には参加できず、頼んでも断られながら10年間やったが、とても勉強になった。

活動の中で、食改協の活動である伝達講習では保健推進員の立場から、自宅で食べる味噌汁の塩分濃度を測ることなどもやった。伝達講習の中では、成果指標の達成状況に記載のある「参加者の固定化・高齢化」はそのとおりであると感じた。

小原幸子委員：自分が食生活改善伝達講習会に何度か参加して感じたのは、ずっと同じ人がやっている。様々な人を取り込んで伝達講習会の取組の共有が必要と感じた。薄味の味噌汁がこういうものである、ということ伝える活動は素晴らしいと感じた。

高橋カヨ子委員：コツコツと改善を続けていくというのが難しいのだと思う。食改協としては良いと思っても、参加者には受け入れにくい食事なのかもしれない。

佐藤洋子委員：伝達講習会も2回開催が1回開催になっているが、コロナの影響か？

阿部勇悦課長：会場での調理ができないことや、会食のような形で作ったものを試食するという、講習会の中心となる活動ができないため、今は栄養士による講習などに内容を切り替えて実施している。

高橋カヨ子委員：一時期は調理をする場所自体が使えないこともあったが、講座が平日開催のため、普及を図るのであれば土日開催を考えるということも改善が求められると思う。

佐藤洋子委員：食生活改善協議会に名前はあるものの、現実には活動できない人もいると聞いている。

高橋カヨ子委員：90歳まで活動すると表彰を受けられることもあり、後進への指導をしながら、一緒に活動しましょうという意識ではいる。

阿部勇悦課長：そうした方々は、ボランティアで食生活改善活動を行っているということで、市でも活動を支援している。

小原好美委員：伝達講習会等の活動は知っていても、活動への参加や自身が推進員として活動することは時間がなく難しい。20代、30代では体の異常が少ないため、生活習慣を改善する必要性を感じる人が少ないのではないかと。若い世代は働きながら料理をしている、時短料理、健康に良くて子どもが喜ぶもの、弁当に入れやすいものといったテーマであれば興味がある。Youtubeでレシピを見られる時代なので、そうした動画があれば、隙間時間で見ることもあると思う。

鈴木健委員：若い世代が食生活の改善に興味を持ってもらうための事業はあるか。

阿部勇悦課長：学校の児童生徒を対象に食育講座を実施している。これは各学校を通じた申込みによるものであり、各学年・クラス単位なので、全ての学校で実施されているという状況ではない。この他、体に良い郷土食を給食メニューに組み込むという取組を多くの学校で実施している。あとはパンフレット配布や母子保健の立場から、育児に関するパンフレット配布をしている。

細川祥委員：今は若い世代でも、考えている人は考えていると思う。食生活が自分の体に与える影響についての知識は持っている。若い世代がターゲットとすれば、食改協の活動のエッセンスを伝える工夫の方法はあるのかもしれない。

シートの記載については、現状と課題に「脳血管疾患」の死亡率が全国と比較して高い状況にあるとのことだが、この死亡率も悪化しているという傾向はあるか。

阿部勇悦課長：「脳血管疾患」については、中期プランを策定した際の課題を落とし込んだものであり、これまで減塩に取り組んできたが、国が最近では医療費のかかる透析が必要となる糖尿病予防をターゲットにしている。寿命が延びているので、早いうちに糖尿病になると透析期間が長くなってしまう。まずは自分の生活の質を落とさないように、という方向に今は進んでいる。

鈴木健部会長：そこまで意識するようになると、自分なりに食事に気を付けるということになるのだと思う。食事や運動でリスクを抑えるという行動変容をもたらすということとは考えられる。

阿部勇悦課長：色々なきっかけがあるが、まずは健（検）診を受けて気づいていただくことがスタートだと思うので、健（検）診の状況は引き続き見ていきたい。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

● 「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について

鈴木健部会長：それぞれ前年度の評価に対応する内容により、昨年度事業が実施されていたと捉えてよいか。

小原幸子委員：良いと思う。未受診者について、商業施設での受診や各支所での夕方からの受診に取り組んでおり、昨年度の評価内容が反映されていると考える。

細川祥委員：違う方向に向かったわけではないので、良いと思う。

鈴木健部会長：それでは、前年度評価時の方向性が、昨年度事業に反映されているとしてまとめてよいか。

(全体で異議なしとして確認。)

● 「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

鈴木健部会長：「食事に気を付けている市民の割合」については、佐藤委員が指摘された内容も含めて、分析内容として妥当であり、若い世代の参加につながっていないという原因になっていると考えられるがどうか。

佐藤洋子委員：記載のとおりだと思う。

鈴木健部会長：「健康増進のために意識的に運動している市民の割合」についてはどうか

小原幸子委員：確かに動きが鈍かったところはある。

鈴木健部会長：アンケート時期がコロナウイルスの発生に重なったことはあるが、前年度もそこまで高い数値ではない。1月以前もそこまでではなかったのでは。

小原幸子委員：市の保健師が、各地域に元気でまっせ体操の指導に歩いていたが、盛り上がりかけたところでコロナウイルスが発生したということはある。そこまではうまくいっていたが、失速したというイメージ。

高橋カヨ子委員：自分のこと以上に見なければならぬことがあれば、そちらに集中してしまうと、運動の時間が取れないということはあると思うので、分析はよいと思う。

小原好美委員：運動を促進するという取組はこの施策のどこで読み取るのか。食生活改善の取組等に含まれるものなのか。

吉田真彦主査：「生活習慣病予防」の取組の中で、生活習慣の改善要素の中の1つに運動の見直しも含めて事業を行ったが、成果としては伸びなかったという流れになっている。

細川祥委員：「運動」という言葉だけでは、スポーツと、健康づくりのための体操や散歩と区別がつかない。

鈴木健部会長：「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組」に、健康アップ講座というものが運動の部分になるのか。

佐藤洋子委員：健康に資する運動や検診、食生活改善などを総合的に行うものである。講座ではスクワット体操や近場は車ではなく歩きで、というような啓発も行っている。

高橋カヨ子委員：講座における様々なカリキュラムの中に、運動が含まれるという方が分かりやすいかもしれない。細く長く続けられる運動。

鈴木健部会長：健康増進のために運動するという契機がないと、意識も持ちにくい。そういう契機がなかなかないために、アンケートの数値が伸びないという印象があり、そういう分析があってもよいと思う。要因に対しての分析が物足りないと感じる。

細川祥委員：成果指標の達成に至らなかった理由の1つとして新型コロナウイルス感染症による事業中止や各団体の活動の停滞が影響し、アンケートで運動しています、と書きにくい空気はあったかもしれないが、それだけかとなると疑問。最初の指標のように、コロナによらない要因分析が加わると、評価の掘り下げとしては納得できるものになると思う。

鈴木健部会長：この部分については、いただいた意見を踏まえて整理させていただく。
(全員、異議なしとして確認)

● 「4 施策を構成する事務事業の検証」について

鈴木健委員：C評価となっている事務事業について記載。これまでの成果や活動実績を踏まえて、具体的な検証がなされていると考えてよいか。

小原好美委員：事務事業「071 感染症予防対策事業」について、狂犬病予防の接種率が95.6%であるが、成果はC評価になっている。狂犬病予防は、何%が目標となっていたのか。

吉田真彦主査：犬を飼うにあたって、狂犬病の予防接種を行うことは法律上の義務であるため、100%を目標としている。評価の仕組み上、親事業である「070 感染症予防対策事業」の評価と同じC評価になる。

鈴木健部会長：100%に対して、95.6%であればおおむね目標達成と言えなくもないが、評価の仕組みによりそうなっているということである。

細川祥委員：登録している犬については訪問による定期健診をして年2回とか接種をする。自分で獣医に行き、予防接種を行ったものも報告があれば内数になるが、登録すらしていない人もいることが考えられるという現実はある。

● 「5 施策の総合的な評価」について

鈴木健委員：本日の議論で出された「若い世代への食生活や生活改善のアプローチ」については、1つの課題になっていると感じる。これを課題として、今後の方向性として、小原好美委員から出されたyoutubeやオンラインの活用による普及活動を行うという点を追記したいと思う。

佐藤洋子委員：昨年花巻市で、花巻まつりの際に花巻ばやしや新花巻音頭をyoutubeに掲載したら、それを見て練習していた人がいる、という話も聞いているので、良いと思う。

鈴木健委員：保健推進員の話でもあったような世代交代の課題も、若い人にどうアピールしていくかということも関連していると思うので、今回示しておけば良いと考える。異議がなければ、そのような記載により整理する。

(全員異議なしとして確認)

● 「シート記載内容全般」について

佐藤洋子委員：事務事業「080 国保制度健全運営事業」について、前年度決算（H30）では国・県からの支援があるが、H31、R2と国・県のお金が入っていないのはなぜか。またH31とR2の予算額が2倍以上となっているのはなぜか。R2では新規に事業を行うということなのか。

吉田真彦主査：手元に資料がなく、この場で正確にお答えすることができないので、第4回行政評価委員会までに確認の上、改めて回答する。